

高校3年生 他大進学文系日本史B 年間指導計画表

教科目(単位数)	他大進学文系日本史B(4単位)			
年間目標	高校2年次からの日本史学習の仕上げを目標とする。なお、他大学受験を念頭に置き、入試に十分に対応できる学力の育成をめざす。			
使用教科書	山川出版社『詳説 日本史B』			
使用補助教材	帝國書院『図説 日本史通見』、山川出版社『日本史B用語集』、『復習と演習 日本史A・B』、つばき『フォーンプラザ 日本史の整理と演習』			
学期	区分	単元	内容	目標・留意点
1 学 期	前 半	第8章 幕藩体制の動揺	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> ・農村・都市の変容により幕藩体制が動揺し、幕府や諸藩が実施した改革の意義と影響を考察する。 ・欧米諸国のアジア進出とそれに対する幕府の対応を考察し、幕府が衰退に向かう過程を理解する。 ・洋学や国学、新たな展開を見せる文学・芸能・美術を社会の変容と関連付けて考察する。 ・開国までの経緯を、日本を国際社会に組み込むにいたった国際環境の変化に留意させ理解する。 ・明治政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業を通じて、国家的統一過程を理解する。
		第9章 近代国家の成立	開国と幕末の動乱 明治維新と富国強兵	
	後半		立憲国家の成立と日清戦争 日露戦争と国際関係	<ul style="list-style-type: none"> ・政府による強力な中央集権体制の推進と、自由民権運動への対応の中で、近代国家の基盤が形成される過程を理解する。 ・不平等条約の改正および東アジアへの進出によって、欧米列強と肩を並べていく過程を、諸外国の動向と関連付けて考察する。
2 学 期	前 半	第10章 二つの世界大戦とアジア	近代産業の発展 近代文化の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争前後にかけて資本主義が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に注目して考察する。 ・大戦前後の政治動向と対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出を踏まえて考察する。 ・大戦後、国際協調体制の進展にいたる国際環境の推移を理解する。 ・文化の背景に、労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の成立があったことを理解する。 ・戦後恐慌から昭和恐慌にいたる国内外の状況について、政治経済の動揺に着目し理解する。
			第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 市民文化の変容と大衆文化 恐慌の時代	
後半	第11章 占領下の日本	軍部の台頭 第二次世界大戦 占領と改革	<ul style="list-style-type: none"> ・対外政策の推移を、世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程を踏まえて考察する。 ・日中戦争の勃発から太平洋戦争にいたる過程を、大戦との関連を意識しながら考察する。 ・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸政策を理解する。 	
3 学 期		第12章 高度成長の時代	冷戦の開始と講和 55年体制	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意味を考える ・独立後の国内政治について、55年体制の成立から安定した保守政権の成立にいたるまでの過程を理解する。 ・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ・高度成長が終わり、保守政権が動揺する中、国際情勢の変化を踏まえて行なった国内の政治対策について考察する。 ・冷戦体制の終結とそれに関わる国内状況について、政治・経済・生活文化の面を踏まえて考察する。
		第13章 激動する世界と日本	経済復興から高度成長へ 経済大国への道 冷戦終結と日本社会の動揺	
評価方法	定期試験と小テストをもとに総合的に評価する。			
学習方法	近年、多くの大学の入試問題は、日本史においても難問・奇問が減り、各時代の総合的な理解ができているか、政治や社会等、各分野の歴史的な変遷が把握できているかを問うものが主流となっている。したがって、予習を行ない、疑問に思ふ箇所を明らかにして授業に臨むことが要求される。授業は、歴史の流れを把握することに主眼を置く。そのために必要な重要事項を効率よく整理し、提供することを心がけるつもりである。授業後、副教材を使って、実践的な課題を出す。			
注意事項	歴史を学ぶ上で何より大切なのは、歴史の流れを「大きくつかんで、細かく押さえる」ことである。やみくもに歴史用語を暗記するのではなく、歴史事象の因果関係あるいは変化を、常に意識して学習する態度が必要とされる。授業で、「流れ」をつかみ、復習のための課題演習を通じて、重要事項の定着をはかってほしい。			
インフルエンザ等 臨時休校になった 場合の課題	補助教材の該当箇所を適宜指示する。			